

受付番号 ()

令和元年度メディア・コミュニケーション研究院共同研究補助金成果報告書

提出日 2020年5月20日

採択研究題目	多文化世界におけるアイデンティティと文化的アイコン： 民族・言語・国民を中心に							
講座・コース名	多元文化教育論分野							
代表者	土田 映子							
連絡先	内線: 5554				email: tsuchida@imc.hokudai.ac.jp			
共同研究メンバー	青木 麻衣子 (国際連携機構、准教授) ゲーマン ジェフリー (メディア・コミュニケーション研究院、教授) 土田 映子 (メディア・コミュニケーション研究院、准教授) 寺田 龍男 (メディア・コミュニケーション研究院、教授) 長野 督 (メディア・コミュニケーション研究院、教授) ブンティロフ ゲオルギー (メディア・コミュニケーション研究院、助教) (以上 50 音順)							
研究協力者	(所属・身分)							
採択総額 (千円)	540							
使途の明細 (千円)	国内旅費		外国旅費		書籍・謝金等		その他	
	事 項	金額	事 項	金額	事 項	金額	事 項	金額
	旅費 × 3 名	215.940			謝金 × 3 名	60	研究叢書印刷代 (抜刷・発送代込 726000 の内)	304.060
	計	215.940	計	0	計	60	計	304.060
予算総額 540 - 決算総額 580 = -40								
研究概要	<p>本研究の目的は、メディアや大衆文化・公教育などが伝達する「他者」「自己」イメージの形成と拡散、受容のプロセスについて客観的に検討することにより、グローバル化・多文化化した社会における各種の現実的課題に対処するための基礎を築くことである。それらの課題の中には、国民国家内の多様な集団間の関係や、国際関係、国境を越えての人の移動に伴う社会的・文化的摩擦などが含まれる。</p>							
研究実績・内容	<p>令和元年度は平成 29 年度を初年度とした 3 年間の共同研究計画の 3 年目であったため、1・2 年目に行われた問題関心の共有・深化・発展を踏まえ、これまでの成果をまとめる一方、積み残しているテーマに取り組んだ。最終年度の共同研究にはブンティロフ助教を新たにメンバーとして迎えた。</p> <p>2019 年 10 月 3 日、多元文化教育論講座 (教育学院) の大学院生であるアシュレー・ドーリンさんとタッチャナ・ツァゲールニックさんの研究発表が英語で行われた。共にアイヌ民族研究のゲーマン教授の指導学生であり、それぞれの研究内容もアイヌ民族の表象に関わるものである。</p> <p>同年 12 月 16 日、ブンティロフ助教による講演「ビザなし交流：構造・課</p>							

	<p>題・メディア」と、一年間の在外研究から戻った青木准教授による講演「オーストラリア遠隔地先住民コミュニティにおける保護者の教育観—『島に生きる』ひとびとの学校選択から考える」が連続で行われた。</p> <p>2020年2月3日には、明治大学の兼子歩専任講師による、アメリカ合衆国のLGBTQに関する講演が、北大文学研究院の瀬名波栄潤教授を迎えて行われた。続いて3月4日には、サイモン・フレイザー大学（カナダ）のダニエル・ムーア教授と京都大学の西山教行教授を迎え、多言語教育をテーマとした研究会が開催された。</p> <p>これらの研究会の内容を反映し、2020年3月に研究報告書を発行した。</p>
研究成果・業績等	<p>2020年3月発行の研究報告書の内容は、平成29年度以来の公開研究会に協力をいただいた研究者による論考・講演要旨・講演資料、多元文化教育論講座所属の大学院生による査読付論文・アイヌ民族のコメンテーターによる座談会となった。以下に目次を示す。</p> <p>「本報告書の発行にあたって」（序文）土田映子</p> <p>「オーストラリア文学と「和解」 — 入植200周年以降の先住民表象」一谷智子（西南学院大学）</p> <p>「On the Frontlines of the Migration Crisis: Faith-based Support for Asylum Seekers in Manchester, UK」 Mark Justin Rainey (National University of Ireland)</p> <p>「カナダの先住民教育における脱植民地戦略 ——ブリティッシュコロンビア州の学校教育を中心に——」広瀬健一郎（鹿児島純心女子大学）</p> <p>「21世紀ケベックにおけるイヌイット文学とイヌー文学の魅惑的な出現 文学的事実についての方法的再解釈」ダニエル・シャルティエ（ケベック大学）</p> <p>5 「遠隔地先住民コミュニティにおける放課後支援：観察・聞き取りからその全体像を探る」青木麻衣子</p> <p>「The Russia-Japan territorial dispute and visa-free exchange with the disputed islands: structure, challenges, media」Georgy Buntilov</p> <p>「Indigenous Peoples' use of media as a form of self-representation: analysis of Japanese government and Ainu discourses relating to the issue of Ainu ancestral remains repatriation*」Ashleigh Dollin</p> <p>「Discourse of Silencing in the Context of the 150th Anniversary of the Naming of Hokkaido: Representation of Ainu-Wajin Relations in the Television Drama “Eternal Nispa, the Man Who Named Hokkaido, Matsuura Takeshiro”」Tatsiana Tsagelnik</p> <p>研究会報告（省略）</p> <p>座談会</p> <p>「アイヌ民族の社会的課題および文化継承について—四人のアイヌの人々と—」八重樫志仁、葛野次雄、萱野志朗、秋辺日出男、ジェフ・ゲーマン</p>

(A4判2頁以内で作成してください)

令和1年度メディア・コミュニケーション研究院共同研究補助金成果報告書
(2020年4月末日締切。総務担当へ電子提出する。) 提出日 2020年6月5日

採択研究題目	地方のインバウンド接遇場面における AI 活用のコミュニケーション方略の探究							
代表者	清水賢一郎 (国際地域文化論・教授)							
連絡先	内線 : 5342				email: kshimizu@imc.hokudai.ac.jp			
共同研究メンバー	田邊鉄 (メディア文化論・准教授)、楊彩虹 (外国語教育センター・特任准教授)、杉江聡子 (メディア文化論・特任助教)							
研究協力者	(なし)							
採択総額	800,000							
使途の明細 (千円)	国内旅費		外国旅費		謝金等		その他	
	事項	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額
	学会発表 (大阪)	16,890 ※オンライン発表に切り換えたため払戻しを受け、予算の大部分は執行されず)			講師謝金 + 交通費 (田中氏)	26,040	講演会及び砂川フィールドワークコーディネート費 AI 自動音声翻訳機 (ポケットーク及び付属品×5台)	245,000 167,870
	計	16,890	計	0	計	26,040	計	412,870
	予算総額 800,000 - 決算総額 455,800 = 344,200							
研究概要	本研究では、北海道の地方自治体、具体的には砂川市における訪日観光客の接遇場面を題材とし、AI自動音声翻訳機を活用した外国語コミュニケーション方略を探究すると同時に、国際協同学習環境の PBL を通じて、インバウンド受入環境整備に関する課題解決策をまとめた。プロジェクトの成果については学会発表とともに、砂川商工会議所において研究成果プレゼン報告会を実施し、砂川インバウンド協議会メンバー、地元住民や行政、観光事業者等と共有した。							
研究実績・内容	<p>主な実績は以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「北海道インバウンドの現状と課題」セミナー (講師: ドラゴンツアー 幸田順一氏) を研究院に公開する形で開催した (2019年8月28日) 2. 地域デザインワークショップ「超・自己中に札幌の「!!」をデザインする」 (講師: 厚真町デザインプランナー 田中克幸氏, [Rethink Creator PROJECT] 講師チームの一員) を実施した (2019年8月28日) 3. 砂川のインバウンド観光の現状と課題に関するフィールドワーク/モニターツアーを実施し、砂川市インバウンド協議会メンバーや砂川の観光事業者からヒアリング調査を行った (2019年9月12日) 4. 研究成果プレゼン報告会を実施した (2020年1月28日、砂川商工会議所) <p>以上を通じて、本研究プロジェクトでは、砂川市におけるインバウンド観光受入環境の実態とその問題点の一端を明らかにし、その改善に向けた提言をささやかながら地元地域にフィードバックすることができた。</p> <p>また、訪日観光客の接遇場面を題材として想定し、英語・中国語・韓国語の3カ国語による AI 自動音声翻訳機の実証実験を通じて、AI 音声翻訳機を活</p>							

	<p>用した外国語コミュニケーション方略について、言語的な因子から文化的な因子まで、さらにAI/デジタルデバイスと私たちとの“協働”の方略——いわばデジタル機器に対する“配慮”を行うことで、人間の言語使用がいつそうユニバーサルな私たちへと変容するような局面——に関しても、新たな知見を得ることができた。</p>
<p>研究成果・業績等</p>	<p>1. 学会発表：楊彩虹・杉江聡子・清水賢一郎・田邊鉄「インバウンド接客場面で AI 活用の可能性とコミュニケーション方略：中華圏観光客の場合」FLExICT Expo 2019、大阪工業大学梅田キャンパス（本発表は COVID-19 の影響でオンライン遠隔参加の形で発表を行った）、2020 年 2 月 23 日 *なお、当初発表が予定されていた下記の学会発表は COVID-19 の影響で開催中止となった。【杉江聡子「複言語環境下の協同学習における AI 活用とコミュニケーション方略の検討」日本外国語教育推進機構 JACTFL「シンポジウム第 8 回 外国語教育の未来（あす）を拓く：複数外国語教育の基盤を創る」2020 年 3 月 8 日、上智大学】</p> <p>2. 研究成果プレゼン報告会：2020 年 1 月 28 日、砂川商工会議所</p> <p>【予算執行に関する附記】</p> <p>1. AI 音声翻訳機に関して、代表的な 2 種類の製品を比較検討するため当初もう 1 つ別製品のレンタル契約も結んだが、製品スペックの仕様説明に誤りがあり本研究計画に必要な条件を満たさなかったため返品した。キャンセル料等は発生しなかったが、予算執行上 107,530 円が未消化となった。</p> <p>2. 当初、学会発表 2 件を予定（採択決定）していたが、COVID-19 の影響により、1 件は開催中止となり、もう 1 件もオンライン遠隔発表に切り替わった。そのため旅費（当初 140,000 円を計上）の大部分が未消化となった。</p>

(A 4 判 2 頁以内で作成してください)

受付番号 ()

令和元年度メディア・コミュニケーション研究院共同研究補助金成果報告書

提出日 2020年6月5日

採択研究題目	トランスナショナルな思想史の語りに向けて—カント哲学の受容と現在							
講座・コース名	公共伝達論・ジャーナリズム論							
代表者	金山準							
連絡先	内線: 5405				email: kaneyamaj@imc.hokudai.ac.jp			
共同研究メンバー	齋藤拓也 (ジャーナリズム論講座・准教授) ドイツ思想史 杉浦修一 (公共伝達論講座・特任教授) ロシア思想史							
研究協力者	馬路智仁 (東京大学助教・イギリス思想史) 小野寺研太 (日本女子大学専任講師・日本思想史) 網谷壮介 (獨協大学専任講師・ドイツ思想史) 金慧 (千葉大学准教授・ドイツ思想史)							
採択総額 (千円)	240							
使途の明細 (千円)	国内旅費		外国旅費		書籍・謝金等		その他	
	事 項	金額	事 項	金額	事 項	金額	事 項	金額
	計		計		計		計	
	予算総額 240		— 決算総額 0					= 240
研究概要	近年、グローバル化と難民などの問題を契機として、人権や尊厳の思想の起源としてイマヌエル・カントの哲学が政治思想の観点から活発に再検討されている。しかし他方で、カントの哲学が社会思想の観点からどのような影響を与え、いかなる展開を遂げたのか、国境を越えた受容の仕方は十分に明らかにされていない。このような問題の検討は、カント研究のみならず、近年要請されているトランスナショナルな思想史叙述の点においても重要な意義がある。本研究はカントの政治思想自体の検討に加えて、こうした未開拓なその国際的な受容の有り様を扱う。							
研究実績・内容	共同研究の今年度の実施計画は、研究者を道外から招いて札幌で研究会を行うというもので、予算の内訳は全て国内旅費である。計画にしたがい網谷壮介氏 (獨協大学専任講師・ドイツ思想史)、金慧氏 (千葉大学准教授・ドイツ思想史) を迎えて札幌にて研究会を開催 (2020年3月4日) する予定で旅客券等手配し準備を整えたが、折からの新型コロナウイルスの感染拡大により同会は中止とせざるを得なかった。この経緯については本研究院会計による照会「新型コロナウイルスによる影響額について」(3月9日) にも報告している。							

研究成果・業績等	齋藤拓也『カントにおける倫理と政治—思考様式・市民社会・共和制—』（単著、晃洋書房、2019年7月）
----------	--

(A4判2頁以内で作成してください)